

JAIFI 11

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

JAIFIとは、「財団法人日本農業研修協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの漢文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、アジア・アフリカ諸国の農村地域社会の人々が、「生きる視点」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発行 (財)日本農業研修協力団
住所 〒386-05 長野県小県郡武石村沖456
TEL0268-85-3465 FAX0268-85-3583

今日のジャイチ

七月にお届けするこの欄は、ご支援下さる皆様へ、前年度事業、収支報告と、今年度事業予定、その他のお知らせを出しています。

◆第四期の報告

一九九五年四月より、一九九六年三月迄の間、以下の事業を実施しました。

- ・ネパールへの支援事業は、現地事務局を窓口にして、
- ・農業技術者派遣は、評議員の松浦浩氏に、六ヶ月間を、国際農林業協力協会の助成を受け、残りの期間、本人のボランティアで、通年態勢で実施。
- ・カカニ農場とシンパンジヤン学校運営に関する詳細報告は、次項以降をご参照下さい。
- ・カトマンドゥ事務局を再開設。一旦、合理化目的で、カカニ農場内に集約しましたが、ネパール政府監督官庁の要請を受けて移転し、支配人の常駐態勢にする。
- ・これら、学校、事務局通



▲朝9:30分、校門が開くのを待つランパンジャン学校の生徒達

財団法人日本農業研修協力団収支報告

1995年4月～1996年3月 (単位千円)

1. 収入の部

①基本財産運用収入	1,297
②支援者寄附金	4,993
③公的機関よりの寄附金・助成金・支援費	17,340
④財団設立者寄附金	2,600
⑤その他の収入	11
⑥前期よりの繰越金	1,540
合計	27,781

2. 支出の部

①国内事業費	1,314
②国外事業費	18,733
③国内事務局運営費	4,857
④その他の支出	92
合計	24,996

3. 次期への繰越金 2,785

4. 収支報告に関する留意事項

1. 収入の部の②支援者寄附金は545件あった内、維持費と使途指定事業費の金額を計上。この他に、「ジャイチ基金」への指定寄附金及び、無指定寄附金の平均2,640千円を繰入れてあります。

2. 収入の部の③公的機関は、郵政省国際ボランティア貯金に係る寄附金・環境事業団地球環境基金助成金・社団法人国際農林業協力協会専門家派遣支援事業費の3件合計額を計上してあります。

一九九六年四月より、一九九七年三月迄の事業を、次のように予定しています。本年度は、ネパールの各

◆第五期の予定

一九九六年四月より、一九九七年三月迄の事業を、次のように予定しています。本年度は、ネパールの各

支援事業に対して、郵政省、社団法人国際農林業協力協会より、資金助成の内定を受けております。

- ・カカニ農場は、引き続き、松浦氏に通年態勢で指導を、お願いします。
- ・シンパンジヤン学校の施設整備は、教室棟、食堂棟を建設。九七年二月、第五期生三十名を迎えて、生徒数五学年合計百五十名となります。
- ・カカニに環境保全センターを計画して、首都圏を中心に、ジャイチ支援者のボランティアの手で、この運営を検討しています。
- ・日本国内事業は、維持の継続を主眼に、前年度と同様の事業を実施。大高木氏には、引き続き、事務局次長として、ボランティアで常駐してもらいます。
- ・パソコン導入の準備を進めています。南悠道上倉徹夫氏の指導で、年内には、

管及び、日本からの指導員派遣費の一部に、郵政省国際ボランティア貯金に係る寄附金の交付を受けました。日本国内の事業は、事務局を基点に、募金、調査研究、現地視察研修の旅、奨学金里親の紹介と親子間の連携業務、各種情報提供、機関誌の発行、各地ボランティアの参加等を、大勢のボランティアの方々の協力で実施。特に、大高木勝明氏には、事務局次長として、一年間を通して、常駐参加を受けました。

継続を主眼に、前年度と同様の事業を実施。大高木氏には、引き続き、事務局次長として、ボランティアで常駐してもらいます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

一般的に先ず訪れる地の、カトマンドゥ、ポカラは盆地型気候です。朝は涼しいですが、日中は暑く、朝夕は冷え込みますが、霧が降りたり、水が凍ることはありません。只、万年雪のヒマラヤ山脈が、屏風のように近くに聳えているため、特に乾季の終り頃、霧が降ります。おおよそ十月から五月が乾季、六月から九月が雨季です。

(事務局 菊池)

ネパール情報

事務所へ、ネパールに関する色々な問い合わせがあります。この質問が、皆様の必要としている情報と考えて、お届けします。

◆日本から、どうやって行くのですか。

関西空港より、ロイヤルネパール航空の直行便が、週一便ないし二便出ています。約九時間です。その日の内に着きます。他に、千歳、成田、名古屋、関西、福岡空港より一日で行ける便として、香港経由で入れます。バンコク、シンガポール等、アジア各地乗換の便もありますが、基本的に経由地で、一泊が必要です。帰りは、直行便は機中泊、その他の便は、乗継地での一泊、又は機中泊となり、いずれも、ネパールでの入国税は、首都カトマンドゥです。

◆理事・監事改選

任期満了に伴い、評議員の推薦を受けて、全員の再選が決まりました。任期は、一九九八年三月迄。理事長、副理事長、常務理事に關しても、異動はありません。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

半年毎の機関誌ですが、どうぞこの誌面より、ジャイチの活動をご理解下さり、前述の通り、公的資金の大幅減少が生じている中、旧に倍してのご支援と、支援者の拡がりに、ご協力下さいませますよう、お願い申し上げます。

記録映画制作中!!

高校の同期生である菊池氏がジャイチという団体を作り、ネパールで活動しており同様に学校を作る計画があることを知り、この小学校に最初に入学してきた子供達を長期間に渡って記録し映画として制作することを企画しました。

彼がジャイチの基本理念として次のように発表されたことがあります。

「開発途上国支援の基本は、自立心の引き出し、継続の維持、文化的相違点の尊重、共同作業を軸にした食糧の確保が原点。中でも最も大切なのは「継続の維持」と「偏狭観の尊重」。教育を支援するならば「子育てと同じ」。最低十年は必要。そして、この子供たちがいつか自分が学んだこの学校に戻り、「知恵を運ぶ人」になって欲しい。映画はその点に注目し、構成を考えました。」

一九九三年四月にシンジャンの学校が開校し三十名の子供達が入学して来ました。映画は特に子供達の成長の軌跡を中心にして、構成されることになりました。そして、ジャイチが子供たちにどのように係り、その教育にどのように取り組ん

できたかを描くことは、ジャイチがネパールにおいてどのような活動を行ってきたか、どのように根づいて来たかの具体的な検証になると思っています。子供たちの成長の記録を、映画の縦軸とする、横軸となるのはカカニの実験研修農場と、日本国内での支援活動です。カカニの農場では松浦氏が現地スタッフと共に、適正農作物の栽培普及のために努力を続けています。この記録を映画として公開することは、多くのNGO団体やこれからNGOで国際協力を目指そうという人々にとってのケーススタディとなると同時に、NGOを知らない人々にとっては、自分たちにもできる身近な国際協力の実存を知ることになり、真の国際協力の在り方を理解してもらうことが出来るのではないかと考えます。五月に五回目の撮影を終えてきました。年に一回位時季を変えてしか行けませんが、通学、授業、グラウンドで遊んでいるところ、家での生活風景等、現在十六、七で二五〇〇フィート（約一〇〇分）の撮影が終了しています。

今後の収録も含めて、映

二月に予定どおり新生児三十名を加え、医学年百二十名で新学期を迎えました。

学校施設充実は計画どおり、教室、教員宿舎の増設、給食用厨房建設を行いました。今後の施設拡張を見込んで、排水計画等を含む将来構想を作業中です。

子供たちはとても元気です

子供たちは、先生の指導を受けながら元気に勉強しています。また、給食をとても楽しみにしています。職員の人がおかずを入れた大きな容器やミルクポットを各教室に運び、当番の子供が一人ひとりの食器に食事を配ります。この日のみにしてい

他のNGO団体やボランティア

の構成は検討中です。なお映画の完成は未定ですが、公開のあかつきには

イアグループなどに呼びかけ様々な催しに上映してもらえたら幸いと思います。(東京都世田谷区松田重篤)



▲ネパールで野外実習を撮影する松田さん



メニユーは、ミルク、干しつづめた米、カレー味の野菜煮込みでした。子供たちは教室で食事をします。机の上は勉強しやすいうように傾斜しているため、椅子の上に食器を置いたり、手に持ったままでもんな食べていました。多く食べる子供はおかわりをもたえます。(一々なくなったら終わり)

給食支給は子供たちの栄養改善に大変役立っています。日本人から見ると決して十分な食事とは思えませんが、好き嫌いを言う子や、まして、食事を残すような子供はいません。満足な食事のできない家庭の子供たちもいる中で、学校で給食を食べられることは、彼らが喜んで通学する理由の一つになっています。(事務局 大高木)

食当りの予算は二十四円です。食事を終えた子供たちは運動場で思い思いに遊びます。ブランコや卓球台(コンクリート製)も設置されました。また、運動場の三面を高いネットで囲み、ボール遊びも思いきってできるようにしています。皆、元気に成長しています。(事務局 大高木)

里親になるきっかけは、菊池氏との出会いでした。五年六月、田植のため帰省した福山の実家より横浜への帰り新幹線の中で出会った。かれは長野に帰るため京都駅から乗車して、名古屋駅まで私と隣り合わせとなりました。その際、私の生立ち、子供の教育等について色々話しました。その時は時間がなく、ジャイチについて詳しくは聞けませんでした。彼が名古屋駅で下車する際に、ジャイチだよりを頂きました。車中それを読んで、年間六万円を十年間続けることを条件で里親になれると言う記事が目にとまりました。当時、私は会社に勤めて三十九年目であり、水戸勤続表彰を受け金一封をもらっておりました。半分は世話になった妻に渡し、残りを物を買うより、何か他の使い道を思案しておりました。そ

の様な時に、ジャイチの存在を知ったわけです。サラリーマンの私にも出来るような制度でしたし、何より世の役に立つ有意義な使い道を見つけたと思いました。自宅に帰って妻と相談し、私の毎月の小遣いの中から五千円を積み立てることにしました。

三年の月日が経過しました。手紙を送りたいと思いつつ、私は、英語が苦手な上、生来の筆無精につき家族の写真を送りました。サノ・カンチャ君からの手紙は、子供に英語の勉強と称して翻訳を頼んでおりました。少しでもジャイチの里親制度を広めたいと思い知人に話しておりますが、実際に参加していただける人がいないのが残念です。どの国でも教育には時間と金がかかるものです。一人でも多くの人がこの里親制度を理解して参加してもらいたいです。サラリーマンでは何人もの里親になれると思いで、あと七年間頑張るつもりであります。ジャイチの方々には、これからもカトマンズとの連絡を宜しくお願い致します。(横浜市金沢区 三島繁)

里親だより

里子の選定については、現地の校長先生の推薦される子供で男女を問わずということに依頼しました。私は写真による選定より簡単に手早い方法と思いましたが、後日聞いた話によると、実は一番難しい方法だったそうです。大変ご迷惑をお掛け致しました。しかし、お陰さまで、私はサノ・カンチャ君の里親となることが出来ました。早いものであれ

カカニ農場における苺の出荷販売状況

(単位kg)

年次	10	11	12	1	2	3	4	5	計
1993-94	-	-	5.2	29.5	13.0	3.8	54.1	6.1	111.5kg
	51.3kg(46%)					60.2kg(54%)			20,400%
1994-95	1.0	12.1	70.9	67.9	6.0	0.4	114.9	-	290.2kg
	179.3kg(61%)					114.9kg(39%)			53,019%
1995-96	42.1	140.3	118.1	110.4	86.4	1.5	257.4	-	756.3kg
	498.3kg(66%)					(34%)			127,266%

注 1993-94は、5月上旬の降雨時まで出荷しました。
 1994-95の4月には生果用として販売されました。一部ジャム作及び種の繁殖。
 1995-96の3月には種繁殖のため移植及び検査分、また4月上旬には採苗準備のため移植しました。
 当数では、女価の場合10-3月上旬50%、4-5月50%程度の出荷が一般的と思われる。



▲苺の選別箱詰作業の風景

の苗を渡して試作をしてもらった事もありました。出荷者も研修生五名、近くの畑を借りて栽培したスナップ2名そして研修生の近くの人2名と増えました。畑の立地条件や灌水の程度や手入れの様子により、差はありますが、思っていた以上の現金収入が得られ、皆栽培面積の倍増を計画しているようです。新たに栽培したいからと云って、研修を受けている近所の人も居ますので、今後は出荷販売体制の確立を図る事が必要となってきました。農場の3年間の月別出荷量の推移は別表のとおりとなりました。

現在、育苗も始めておりますが、降雨が少ないためランナーの発生も遅れ、また少ないのですが、今後降雨と共に、他の農作業同様忙しくなる事と思います。一、五月の旬別降雨量は別表をご参照下さい。また、「とよのか」は収量も少なく、この地方には不適と判断して、すべて処分しました。昨年と異なりポリフィルムでの被覆は行わずすべて露地栽培でしたが、数回雹もふりました。量も少なく余り被害はありませんでした。採種用の美濃早生大根も鳥の被害が多いため、四月上旬に対処しましたが、その後降雨もあり乾燥には苦

の後の降雨もあり乾燥には苦勞しましたが、五月中旬に終了しました。しかし、販売価格がキロ当たり百ルービ程度と収量や種子採りに手間の掛かる割には余り良い作物とは云えそうにもありません。サツマイモの販売は前号に書きましたように、貯蔵しておいて四月までの間にを行いました。新しい適応作物の試験として、灌水容易な整備した毒の跡地等を利用して、プロコリー五品種、つる無しカボチャ二品種、早生のマクワウリ等を栽培、その他キヤベツ二品種、カリフラワー、味が良いと評判のエビスカボチャも、今のところ順調に成育しております。

他の畑には、キヌウリ、スイートコーン、インゲン、レタス等も植えてあり、苗床には、サツマイモ、六月の降雨が始まる頃に植える予定のキヤベツ、コールラビがあります。なお、サツマイモの第一回植付けを五月上旬に行ないました。乾燥でどうなるか心配しております。また、例年より遅く五月上旬に播種したゴボウ三品種も数きワラ、連日の灌水の効果が、発芽状況は良好です。今年も六月上旬に二回目の播種も行い、

（農業指導員 松浦 浩）

今、カカニ農場では

三年目を迎えた苺の販売も、昨年の十月十六日より始まり、五月五日にすべて終了しました。農場では降雨のため毒に泥が付着しはじめた事と収穫時にせっか

く発生しはじめたランナーを踏みつけてしまうので、四月二十七日で出荷を打ち止めてしまいました。採苗の準備に入りました。また、三月上旬には、畑を整備するため採苗用の母株として移植したり、栽培希望者に配布したりと栽培面積は半分近くに減ってしまいました。乾燥季を利用しての作業は予定通り終了、現在では試作

のブロッコリーやつる無しカボチャ等の新しい作物が成育しております。昨年は、四月下旬が高温のため日持ちが悪く、また生果の需要量も少ないため販売しきれず、ジャム等も作

カカニ農場の旬別降雨量の比較 (単位mm)

日	1993	1994	1995	1996
1 上	8.1	-	6.5	1.7
1 中	0.6	30.2	0.5	61.0
1 下	-	-	-	-
2 上	18.0	24.9	7.8	-
2 中	19.9	37.9	14.0	37.3
2 下	-	11.4	15.5	26.0
3 上	3.9	-	0.5	12.6
3 中	4.5	4.2	-	-
3 下	38.0	19.2	43.3	5.1
4 上	13.6	5.5	-	3.2
4 中	39.5	140.7	4.1	13.1
4 下	96.6	3.5	1.5	11.9
5 上	29.6	52.0	0.3	30.3
5 中	85.0	20.7	206.0	212.8
5 下	157.3	23.3	6.3	?

の後の降雨もあり乾燥には苦勞しましたが、五月中旬に終了しました。しかし、販売価格がキロ当たり百ルービ程度と収量や種子採りに手間の掛かる割には余り良い作物とは云えそうにもありません。サツマイモの販売は前号に書きましたように、貯蔵しておいて四月までの間にを行いました。新しい適応作物の試験として、灌水容易な整備した毒の跡地等を利用して、プロコリー五品種、つる無しカボチャ二品種、早生のマクワウリ等を栽培、その他キヤベツ二品種、カリフラワー、味が良いと評判のエビスカボチャも、今のところ順調に成育しております。

今年、農場での主な栽培作物としては、産地化を目指す苺、ゴボウ、サツマイモ、栽培方法の改善のための大根を主体に考えています。野菜作りは元より、農業にとって一番大切な土作りのための堆肥の増産を、土壌中の腐植含量の増加を目指すと共に、今のところ育苗土の作成と採種用大根の後処理のためにしか利用していませんが、EM菌の積極的利用も考えられております。しかし、日本と異なりナタネ粕や魚粉、骨粉等の有機質肥料も入手

できません。また、リン酸の単肥も入手できませんので、リン酸分の補給をどうするか悩んでいるところです。現在のところ人手可能な材料としては、米糠、モミガラ、埋肥等ですので、これらを利用してEMボカシを作り、リン酸分は化学肥料で補うつもりです。十一月より建設を始めた宿泊施設も完成しておりますので、ご利用をお待ちしております。

最後に、社団法人国際農林業協力協会(AICAF)始め、環境事業団、ジャイチの活動にたいしてご支援願っております。皆様方に厚くお礼申し上げます。

（農業指導員 松浦 浩）



▲新設の研究調査員宿泊棟



▲育苗土作り(腐土、モミガラ、堆肥、EMボカシ、米ヌカなど混合)

農場の特別研修制度を利用し、ジャイチ・カカニの農場で一九九五年十一月二十四日～二十七日、十一月三十日～一九九六年一月二日の間、植林プロジェクト作業の仕事をさせて頂いた。私にとって、貴重な経験であり、今後に繋がるきっかけを見いだすこと出来た。二十六日間で、約一ヶ月半で出来る仕事として、①農場内にて、育成している樹木の種類、本数、成育状況をエックする。

②近隣の子供達との親睦交流をはかる。ということ。を主テーマとし、松浦氏、現地スタッフの指導を得ながらの体験学習であった。

カカニ地区一帯は、谷から段々畑がせりあがっている農村地帯である。ジャイチの農場は一ヘクタール程の畑と、川、山林、森林区域、宿舎敷地等で見知られている。農業指導員の松浦氏、ネパール人専任スタッフ三名、近隣地区からの研修生により、農場に関するすべての作業（開墾、造成、作物作り、出荷等、植林）と管理がされているが、遠くからでも一目で判る程、

ジャイチの植林活動の研究事業調査報告



畑が整地されている。育しそうな樹木を植樹し、実生から苗木を育てているが、今回の調査で、土壌、気候に順応していることがわかった。特に黒マツ、ネパールマツ、スギが環境に適応しやすい樹木のようにある。

「植林調査」カカニ地区周辺はネパール国内の他地域と同様、森林の樹木を伐採し、薪や建材として使用してきた。畑になった土地は生活に必要な田畑として開墾され、森や林がなくなつてゆく状況が今でも続いている。生活が大事か自然保護が大事かとなれば、生活が優先することとは必定である。

農場内に流れる川に面して、植樹されているスギは、水及び湿度に恵まれている為順調に生育している。ネパールマツ及びクロマツは、カカニ地区一帯にも自生している樹木であり、現在のもころは繁殖そのものである。栗、モミジ、カエデ、などは、周辺の雑草の勢いにおされ、さらなる乾期で、残念ながらほとんどが枯れてしまつた状態である。

一方、森や林を取り戻すには、三〇年～一〇〇年の時間とその間の樹木のメンテナンスが必要である。そのことから、農業の意味と実質的な目的から、JAITI T1では、植林実験をしつつ普及活動を推進しており、農場内で畑にし難いエリアに、数十種類の樹木を植樹し、成育状況を観ている。サウ、栗、カエデ、サクラ、黒マツ、ネパールマツ、スギ、カラマツを始め、成

今後も、環境に適する自力のある樹木を見つけ、育成し周辺地域へ拡げてゆくことが、ジャイチの役割と、菊池事務局長、松浦氏は明確に、地道な努力が続けられている。現地スタッフ並びに周辺住民の理解と協力が得られるようになるまでは、まだ時間がかかりそうであるが、数力ながら、私もその一員として関わってゆきたいと思つている。

「ヒマラヤ・ランタン花紀行」出版のご案内
ジャイチ支援者のお一人、高橋住晴さんが素敵な写真集を出されました。花の谷として有名なネパール、ランタン地方の色とりどりの花の写真集です。トレッキングルート図



も記載され、ガイドブックも兼ねた紀行文となっています。発行所 株式会社誠文堂新光社 価格 三三〇〇円

「おねがい」
次の方々への郵便物が届きません。新住所をご存知の方は、事務局までご連絡をお願い致します。カカニ内は旧住所です。

加藤修市、美枝様 (名古屋市守区)
河崎義祐様、川崎市宮前区
宮原一史、知子様 (東京都武蔵野市)
西川廣昭様、東京都渋谷区 (事務局 大高木)

編集後記
この二エースレターが届く頃「カカニ」で四年前から育ててきたネパールの蘭の花が咲きます。リンゴステイリス レチ

ユースという名前では桃色の三センチ厚み、近性です。(写真)これが、素直さの象の鉢に植えてあり「カカニ」のカラー料理とともにネパールの風情が楽しめます。どうぞお出掛けください。本号より文章末尾に投稿者住所氏名を記すことと致しました。

本号の郵送料は物整理(土倉徹夫氏)が負担してくださいました。(武石村 堤)

ネパールの農場と学校訪問の旅 参加者募集
毎年好評いただいている旅を今年も実施します。
●日程 十一月九日(日)～十一月十七日(日) 八泊九日。
●経路 成田・名古屋・関西・福岡の各空港から香港空港へ集合。カトマンズへ同日着。ボカライ・チトワン国立公園・シンパンジャン学校・カカニ農場・カトマンズと移動して、十七日お昼に関西空港着。

ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何れも心に留めて下さり、感謝申し上げます。運営されている財源その他について説明とお願いを致します。ご協力をお願い申し上げます。

1. ジャイチ基金……財団法人ジャイチの基本財源の確保
基金を信託銀行で運営し、その果実(運営費)でジャイチ活動の基本部分を確保することを目的としています。宿草草、多年草、果樹のようなものです。
- 基金が大きくなればなるほどジャイチの財源が豊かになります。
- 基金へ寄附して頂いたお金は何十年何百年あともジャイチと共に蓄積の功が残り続きます。
2. ジャイチ維持費……ジャイチの運営維持費
基金から生み出される財源では只今のところ活動に不足を来します。そこで今必要な活動に使わせて頂く目的のものです。一年草のような草種は秋に収穫して終わります。・当分の間、この維持費はジャイチの活動に欠かせない費用です。
3. ジャイチ事業費
新たに大きい費用のかかる事業を計画した時にその経費として確保することを目的としています。
- 通常の子算(ジャイチ基金の果実、ジャイチ維持費で組まれる)では精いされない時に臨時に集める目的の寄附金です。
- 必要時に皆様にお願いのお知らせをさせていただきます。

ジャイチでは上の3つのような形でご寄附をお願いしております。何にご寄附下さったのか、お教え頂きますと幸いです。もしも特に指定のない場合は基金と維持費に半分ずつ使わせて頂きますのでご了承下さい。

郵便振替 00510-4-65434
振込先 番号 銀行振込 八十二銀行九子支店(替) 42577
口座名 財団法人日本農業研修協会
住所 〒386-05 長野県小県郡武石村455
電話 0262-85-3485 FAX 0262-85-3583

尚、金額に関しては規定がございませんので、お独りお独りご自分でお決め下さいますようお願い申し上げます。(例えば、収入の1%を、小遣の1%を、約な考えは如何がでしょうか。)